

失われつつある日本の

ツチグリ属菌食文化の真相に迫る

ツチグリ属菌食文化がなぜ福島では受け継がれてきたのか 要旨

氏名：伊井美結

ツチグリ属のきのこは日本全土に分布し、東北、中部、中国、九州を含む、幅広い地域でその食利用が確認されている。日本全国には、限られた地域でのみ古くから食利用される野生きのこが多数存在するものの、6~7月の初夏に採取される点、そして地下で生育するきのこを食用とする点において、ツチグリ属菌を食利用する文化（以下「つちぐり食文化」とする）は他の野生きのこ食文化とは大きく異なる。現在、日本各地でつちぐり食文化が衰退の一途を辿っていることから、失われつつある日本のつちぐり食文化の真相に迫るため、福島県、宮崎県、鹿児島県においてインタビュー調査、アンケート調査、及び録音データ調査を行った。本研究の目的は、特定の地域における特定のきのこ食利用に関する研究を通じた菌類民俗学研究の方法論確立、そしてつちぐり食文化の来歴や特性を解明し、地域の歴史や文化の保存及び継承に貢献することである。今回、調査で得られたデータ数には福島県と九州（宮崎・鹿児島県）との間に大きな差があり、両者を並列して論述することは難しいと判断したため、本論では「ツチグリ属菌食文化がなぜ福島県では受け継がれてきたのか」という問いのもと福島県の事例を、補論では「ツチグリ属菌食文化がなぜ宮崎県や鹿児島県では受け継がれてこなかったのか」という問いのもと宮崎県及び鹿児島県の事例を取り上げて考察を行った。

今回の調査では、福島県民 22 名、宮崎県民 2 名、鹿児島県民 1 名を対象にインタビュー調査を、福島県民 4 名にアンケート調査を、宮崎県民 1 名に録音データ調査を行った。インタビュー調査では、1 人あたり 60～90 分程度の半構造型インタビューを対面及びオンラインで実施した。アンケート調査では、質問項目を記載したアンケート用紙を送付し、回答を依頼した。録音データ調査では、過去に収録された音声データから本研究の趣旨と重なる部分を拾い上げ、記録した。

本研究において、福島県におけるツチグリ属のきのこは、故郷で過ごした日々を体現する思い出の味を表すことを結論付けた。つちぐり食文化は家族内で継承され、その話には各々の幼少期を彩る思い出が詰まっていた。このような故郷での思い出を追従するように人々はツチグリ属のきのこを追い求めることで、現在まで文化の継承がなされつつ、守秘性や食材としての評価が時代とともに移り変わってきたのだろう。一方、宮崎県及び鹿児島県では、ツチグリ属のきのこを探して採り、食べるという行為に特別な意義づけや価値づけは認められなかった。現在これらの地域で残っているツチグリ属菌の利用は「文化」とは呼び難いほどまで衰退しているため、これらの理由までは判断できなかった。また、3 県での調査結果から、つちぐり食文化の起源として、ショウロを誤認したという説と、これら 3 県に共通して分布する火山灰質の土壌がツチグリ属菌の生育に適しており、これらの地域にもともと、ツチグリ属菌が豊富に発生することに起因するという説を提示した。